

どのように金融政策を教育すべきか、発信すべきか、理解すべきか

神戸大学 宮尾 龍蔵 (パネル座長)

神戸大学 柴本 昌彦 (パネル副座長)

<パネル趣旨>

現代の金融政策は非伝統的な政策手段に踏み込み、将来の政策指針（フォワードガイダンス）や経済物価見通しを公表して透明性を高めるなど、大きな進化を遂げてきた。一方で、大学教育の現場において金融政策は、伝統的な IS-LM モデルに基づく外生的マネーサプライ供給という形で捉えられがちであり、現実の進展とはかけ離れているとの指摘も少なくない。フォワードガイダンスという情報発信そのものが金融政策と位置付けられるなか、複雑な現代の金融政策をどのように教育すべきか、中央銀行当局からのコミュニケーションはいかにあるべきか、そして市場関係者は新しい政策理論や中央銀行からの情報発信をどう理解しているのか、議論を深めることは重要である。

以上の問題意識のもと、本パネルでは、大学関係者、中央銀行、市場関係者、それぞれの立場からパネリストにご登壇いただき、上記の問題について討議する。ご登壇いただくのは、東京大学経済学研究科教授・青木浩介氏、一橋大学経済学研究科教授・前日本銀行金融研究所長の関根敏隆氏、三菱 UFJ 銀行シニアエコノミスト・鈴木敏之氏の 3 名である。

具体的な論点としては、(i) 教育の現場で取り入れるべき基礎的なモデルとは何か、(ii) 中央銀行は市場や国民との対話の際に何に注意すべきなのか、(iii) 市場関係者は中央銀行の政策意図をどう理解しているのか（たとえば「ゼロ金利をより長期に継続」といったガイダンスを積極的な金融緩和の強化と受け取るのか、景気見通しの悪化―「情報効果」―として理解するのか）、といった問題が考えられる。これらの問題も含め、ご報告やディスカッションを通じて、検討していきたい。

パネルの進め方は、

- ・報告パート 1 時間（各パネリスト 20 分×3）、
- ・コメントパート 30 分（各パネリスト 8 分×3+座長コメント）、
- ・ディスカッション 30 分

を予定している。